参考資料１

平成２８年度　碧南市病院事業報告書

１　概況

(1) 総括事項

ア　業務状況

碧南市民病院は開院２８周年を迎え、この間、第２次救急医療機関として、また市民の生命と健康を守る地域医療の中核的な病院として着実に成長してまいりました。

平成２７年４月に策定した碧南市民病院中期経営計画（以下「中期経営計画」という。）の実行２年目となった平成２８年度の事業運営にあたっては、中期経営計画に定めた３つの基本方針「活性型組織に向けた目標意識の向上と組織の柔軟化」、「地域住民及び医療機関から求められる医療の提供」、「将来にわたり安定した経営基盤の確立」を実現するため職員意欲の向上、医療の質の向上、医師・看護師等確保対策、地域連携の推進、職種別生産性の向上及び経費の削減等に積極的に取り組んでまいりました。

また、平成２７年度に総務省より新公立病院改革ガイドラインが発表され新公立病院改革プランの策定が指示されたことから、これに従い平成２９年３月に中期経営計画を改定しました。新公立病院改革プランでは、「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」の４つの視点からの策定が求められており、経営改善は勿論のこと、地域における病院の役割を明確にすることも求められています。高齢者人口の増加、地域医療構想、医師不足といった病院を取り巻く環境が変化している中で、市民から求められる病院機能を判断し、当院の医療資源が最大活用されるよう努力してまいります。

経営状況といたしまして、医業収益においては、対前年度比２億４千７百万余の悪化となりました。入院、外来ともに患者一人当たりの診療単価は前年度を下回り、患者数についても減少しました。それらの影響から、医業収益は前年度を下回る結果となりました。

支出では、看護師等の確保に伴う給与等の増加により給与費が増加したこと、平成２７年度に更新した病院情報システムの減価償却が始まり減価償却費が増加したこと等により平成２８年度の当期純損失は６億５千１百万円余となり、対前年度比１億８千３百万円余の悪化となりました。

その結果、年度末の累積赤字は６２億８千５百万円余となりましたが、当年度改定した中期経営計画の目標に向かって、地域の中核病院としての役割を果たしつつ、職員一丸となってさらなる経営の健全化に取り組み、経営の効率化、現有医療機器の有効活用、地域の医療機関及び介護保険施設等との連携強化、経費の削減等により一層努めてまいります。

イ　患者数

入院患者（退院含む。）は、８８，２８５人（１日平均２４１．９人）で昨年の９１，０７２人より２，７８７人の減、また、外来患者数（時間外含む。）は、１８５，１１９人（１日平均７６１．８人）で昨年の１９４，１６１人より９，０４２人の減となりました。

ウ　収益的収支

病院事業収益は、７，３７９，８２１，５４８円、病院事業費用は８，０３１，４３０，９９０円で、当期純損失は６５１，６０９，４４２円となりました。

収益については、医業収益が６，４４０，１９７，５８５円（うち一般会計負担金１１３，６２７，０００円）、医業外収益が、９３４，１２５，３２０円（うち一般会計負担金８３６，６１４，０００円）、特別利益として過年度損益修正益５，４９８，６４３円でありました。

費用については、給与費・材料費・経費・減価償却費等医業費用として７，６５９，１５１，７８８円、企業債利息等の医業外費用として３７０，８７９，７４７円を執行したほか、特別損失として過年度損益修正損１，３９９，４５５円を計上しました。

エ　資本的収支

資本的収入は、１，６３３，１６８，０００円、資本的支出は、１，２７０，１７８，３０２円で、差引額は３６２，９８９，６９８円の収入超過でした。

収入の内訳としては、一般会計からの繰入として出資金３９１，１８８，０００円、企業債５４０，０００，０００円、財産収入７０１，９８０，０００円を受け入れました。

支出においては、建設費として、中央監視装置更新工事、エレベーター更新工事、医療ガス監視装置更新工事等で５８３，８４７，１００円、超電導磁石式全身用ＭＲ装置、核医学診断用検出器回転型ＳＰＥＣＴ装置等を購入するため資産購入費と

して３７９，６５５，０００円、ほかに企業債償還金（元金）として、６６８，３３１，２０２円、投資として看護師等修学資金貸付金１８，０００，０００円を執行しました。

以上が平成２８年度の決算概要でありますが、今後とも医療体制の充実、医療の質の向上を図るとともに、患者サービスの向上に努め、経営の健全化を図り、地域住民の総合基幹病院としての機能をさらに高めるよう努力してまいります。